
今日のみ言葉 184 2009.10.10

「私が顧みるのは苦しむ人…」

(イザヤ書 66 の 2)

わたしが顧みるのは、苦しむ人、霊の砕かれた人、わたしの言葉におののく人。

This is the one whom I approve: the lowly and afflicted man who trembles
at my word.

多くの人々が見つめようとするのは、マスコミによく現れる政治家や芸能人、スポーツ選手といった有名人である。それに応えてマスコミも繰り返しそのような人物を人々に提供する。とくに毎日のように特定のプロ野球の選手など新聞やテレビなどに現れる。ほかの人間のさまざまな活動に比してあまりにも偏重した扱い方だと言えよう。

しかし、神はまったく異なる。神が見つめるのは、いま苦しんでいる人、圧迫されている人、そして心が壊れたようになって悲しんでいる人なのである。また、それまでの自分のたかぶりや罪を知って打ちのめされている人、そしてそこから神のすべてを御支配されている力を知って、神の言葉をおそれをもって受け取る人である。

私たちのこの世界には、至る所で紛争など悪の力や災害などで苦しむ人たちがいる。それは今に始まったことでなく、はるかな遠い昔からずっと続いている。なぜ特定の人が著しい苦しみや悲しみに出会うのか、その苦しみがいやされることはないのだろうか…。

もしこのようなことに関して全く光がないのなら、この世は全く深い謎であり、生きていくことに希望がなくなっていくであろう。今、元気で働いて、また仕事や家庭も健康も恵まれているといった人がいても、その人もいつ難しい病気や事故が襲うかもしれない。そして老年になるとたいてい孤独や病気、あるいは人生目的を失って心が空虚になっていくことが多い。

そのような闇のなかで、もし人がこの世界を創造された神を知るとき、そしてその神が、ここに言われているようなまなざしで人間を見つめておられるのを知るときには、この謎に満ちた苦しい世界に、光が射しているのを感じることができる。

苦しむとき本当にわかってくれる人を持つことはなかなかできない。しかし、目には見えないけれど、神はその苦しみを下さっている。そして、神の言葉の真実性を信じつつ、そのような神に求めるときには必ず何らかの励ましや希望を与えて下さる。求めよ、そうすれば与えられる、という約束の言葉のとおり。

ウコンウツギ (スイカズラ科)
北海道 大雪山 (黒岳) 2009. 7



ウコンウツギの群生
(手前の白い花はカラマツソウ)



この花は、大雪山 (黒岳) の標高 1500 メートルあたりから、咲いています。私は、44 年前の夏、この写真の撮影時期とほぼ同じときに大雪山系を縦走したのですが、そのときには今のように植物についての知識もなく、さらに、ロープウェイやリフトもなく、ふもとから重いリュックを背負って長距離を登っていかねばならなかったため、ゆっくり草花を味わうゆとりが持てなかったのです。

しかし、今回は、リフトを降りたところにすぐ咲いていて、私の目に最初に強く入ってきた花でした。そこからだいぶ登っていくと、下の写真のように山の斜面に大群落を見せていて、北の高山の厳しい環境を喜んで咲き、創造主たる神への賛美を繰り返しているように感じたのです。

この植物の名前にある ウコン (鬱金) とは、インドなどの熱帯アジア原産の多年草で、ショウガの仲間です。その根茎を薬用、また香辛料や染料として古くから利用されてきました。このウコンで染めた色は深み

のある黄色です。そこから、このウツギの名前も作られています。なお、桜の仲間にも、ウコンとって黄色の花を咲かせるものがあります。「ウコン色の花を咲かせるウツギ」といった意味です。

今回掲載したウコンウツギは、高さは 1~2m 程度で、分布は、岩手や青森の山岳地帯、そして北海道やシベリアに至る北方にみられる樹木。本州に住む大多数の人にとって、この花を実際に見ることはできないわけで、ここ大雪山にては豊かに咲いているのを見ることができたのは恵みでした。このウツギの仲間は、四国でもヤブウツギ、ハコネウツギなどありますが、下の写真にあるような一面に咲いている群生などは見たことのないものでした。寒さ厳しいなかを好んで咲くこのような樹木の花、ここにも神の創造の豊かさを知らされるのです。(文、写真とも T. YOSHIMURA)